

2018年活動スローガン 「世界の子ども達へ 愛の架け橋 いつまでも」

報 告

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・会員有志の方よりカバシア郡の学校へトイレ2基

●その他の寄付

・仲島正教様よりカバシア郡の学校へ図書202冊

・朝田花様よりYURIKO エンゼルスクールへ図書202冊



〈フィリピン〉

5月にフィリピンの「財団法人北ルソン比日基金」へ今年度奨学金200万円を寄付

イベント情報

10/17 (水) 秋のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター (伊丹市)
時間: 10:00~14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、寝具、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆ 大型家具、電化製品、使用済み食器等

■ バングラデシュ・トイレ建設ご協力のお願い ■

トイレ1基(井戸付)10万円

バングラデシュの農村の学校では、トイレの備わっていないところがまだ多くあります。生徒達が毎日学校へ通い安心してトイレを使えるよう、トイレ設置のご協力をお願い致します。



編集後記

皆さん、ジャックフルーツという果物をご存じでしょうか? バングラデシュが原産で、長さ70cm、幅40cm、重さ40-50kgに達することもあり、世界最大の果物とも言われています。トロピカルな香りと甘み、そして粘り気もありつつもちもちで、グミを思わせる食感です。バングラデシュでは今の時期(7月頃)が収穫の最盛期で、道端の至るところで山積みになって売られています。一度食べてみると止まらない美味しさですよ。

2018年 行事予定

7月現在

8月	4日(土)~11(土)	ファミリーツアー	バングラデシュ	
	18日(土)	チャリティバザー	南小フェスタ	伊丹市
9月	9日(日)	ノクシカタ販売	住吉大社	大阪市
	29(土)~30(日)	チャリティバザー	大田区立消費者生活センター	東京都
	29(土)~30(日)	ノクシカタ販売	グローバルフェスタJAPAN2018	東京都
10月	17日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEWS

通巻184号
2018.07① 特集 エンゼルホーム
② ボランティアひろば

エンゼルホームの子ども達と縄跳び大会

バングラデシュの話をする「バングラデシュってどんなところ? 食べる物はカレー?」と聞かれます。中には「私も行ったことがあります」と言われる方もおられますが、たいていの方が「場所は何となく分かるけど実際どんな国なのか分からない」と言われます。そんな時私はこう答えます。「特に目玉となるような観光資源はありません。街には人が溢れていて、車は入り乱れてゴミも多いです。でも人が親切で互いに助け合って生きています。バングラデシュの魅力は『人』です」

先日、スタディツアーでバングラデシュに行きました。バングラデシュが初めての方は、その人の多さや混沌とした街に驚いていました。十数年ぶりに行った方は、以前と違い周辺は人が溢れているが、それでも変わらずに緑豊かなエンゼルホームに感動していました。日本で毎日ボランティアに来ている会員の方は自分達が頑張っているボランティアがこうして実を結んでいる事を喜ばれていました。参加者の方それぞれが違う想いを抱いていましたが、皆さん共通して「現地の方やエンゼルホームの子ども達との交流がとても感動した」と言われていました。

私はこの『人』が魅力的なバングラデシュをもっと多くの方に知って頂きたいと思います。私達国際エンゼル協会の活動を通じて、もっと多くの方にバングラデシュの事を伝えたいです。そして、現地に行ってその魅力を肌で感じていただければと思います。ちなみに、食べ物カレー味の物が大半ですがそれぞれが違った味ですので飽きる事はありません。きっと食べ過ぎるくらいに食べれてしまうはずです。バングラデシュに行かれた時は、勧め上手な現地の人達とのやり取りも楽しんでください。

スタディツアー引率 東村 良平

1986年
バングラデシュに開設

特集 人を大切にする心を育むエンゼルホーム (児童養護施設)

将来子ども達が社会に出て自立して生きていくため、エンゼルホームでは小さい時から様々なことを教え、大きな子が小さな子のお世話をするなど良い習慣を伝えています。また、自分で物事を深く考える力を身につけるため月2回全員で話し合いの場を持ち、互いに意見を出し合って約束事を決めています。

アジズル・バリ現地責任者は、「時間や約束を守ることの大切さ」「人に親切すれば自分に良いことがかえってくる」「夢を叶えるためには寝る間も惜しんで努力する」など、わかりやすくとえ話を交えながら話をし、いつも子ども達は真剣に耳を傾けています。

エンゼルホームの 子ども達の日 (土～木)

- 5:30 起床
- 6:00 お祈り
- 6:30 朝礼・体操・清掃
- 7:30 朝食
- 8:00 YURIKO エンゼルスクールに登校
- 8:30 YURIKO エンゼルスクールの朝礼
- 9:00 授業開始
- 12:00 低学年下校・昼食
- 15:00 高学年下校・昼食
- 15:00 自由時間
- 18:00 お祈り
- 18:30 軽食
- 19:00 自習
- 21:00 お祈り・夕食
- 21:30～22:30 就寝

*時間は曜日・季節により変わります



早朝の掃除



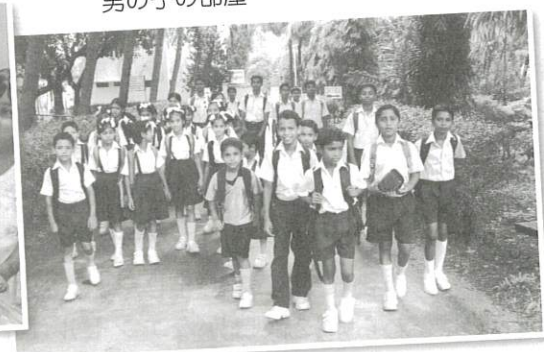
毎日の朝礼と体操



男の子の部屋



朝食作りの手伝い



集団で登校



ボーイ(ガール)スカウト



ダンスのレッスン



自由時間にはクリケットなど



夕方の軽食タイム



自習室で勉強



モスクでお祈り

子ども達のミーティング

エンゼルホームでは2週間ごとに子ども達全員が集まってミーティングを行っています。そこで立候補によって次の2週間のリーダーを決めます。そしてリーダーの議事進行のもと、食堂や部屋の掃除当番など決めます。また、この2週間に起こったうれしかったことや困ったこと、お願いすることなどをそれぞれがみんなの前で報告します。その後、新聞やテレビのニュースから知った面白いことや考えさせられること、またエンゼルホームを卒業して社会で頑張っている子ども達のことを私から話します。そうして時々詩の朗読や歌を歌い、約1時間半のミーティングは終了します。

そしてミーティングの時に私は子ども達を励ますため、色々な話をします。「自分の夢に向かって頑張って勉強しなさい。あなた達が学んだことは財産となり、必ず将来役に立つ時が来ます。今はそれぞれ事情があって家族と離れて暮らしているけれど、その代わりにこのエンゼルホームで様々なことを経験し成長していける機会に出会えました。日本の皆さんのサポートに感謝して、そのご恩は決して忘れてはいけません。自信を持って生き、いつも人を大切にしてください。そして年2回田舎の家に帰った時は、家族や周りの人のために良いことをするように心掛けなさい」また、時には叱ることもあります。その時は後で必ず褒めてあげます。子ども達が立派な大人に成長してくれることを願っています。

現地責任者 アジズル・バリ

No.28

エンゼルホームの子ども紹介

アマンウッラ君
Aman ullah
(16才)



アマンウッラ君は小さい時にお父さんを亡くし、母と二人で暮らしていました。しかし生活はしだいに厳しくなり、彼が8才の時にエンゼルホームで生活することになりました。ホームの生活にはすぐに慣れ、今では学校から帰ったら自習したりみんなとサッカーなどをして毎日楽しく過ごしています。

現在YURIKOエンゼルスクールの9年生で、学校での授業はもちろんのことホームに帰ってからも毎日がんばって勉強したおかげで、最近成績がぐんぐん上がってきています。

◎アマンウッラ君にいろいろ質問してみました。

Q一番好きな教科は…数学

Q最近一番うれしかったことは？

…昨年12月の8年生の卒業試験(JSC)にA⁺の成績で合格したこと。

Q将来の夢は…エンジニア

Q日本について知っていることは？

…相撲が人気がある。日本人はみんな桜の花が好き。

なんでも一生懸命に取り組むアマンウッラ君、これからも夢に向かって勉強にスポーツにがんばって下さい。

第21回

楽しいボランティアひろば 2018

爽やかな晴天に恵まれた6月3日(日)、毎年恒例の「楽しいボランティアひろば」が国際エンゼル協会ボランティアセンターにて開催されました。当協会の活動紹介の他、和太鼓「はぐるま」の演奏など様々な催しがあり、ご家族連れの方やご近所の方など多くの方々に楽しい一日を過ごしていただくことができました。エンゼルの楽しい輪がますます広がっていくのを感じた一日でした。



力強い和太鼓の演奏



心のこもった手作り品の数々

手作り作品展

ノクシカタ刺しゅう
製品展示販売子ども
コーナー一日中子ども達の
楽しそうな声
であふれていた
子どもコーナー

お楽しみ市



お楽しみ市の品物は、生活にすぐ必要なものではありませんが、話をしているうちに興味を持って買っていかれました。とても面白い経験でした。

ボランティア20代 男性



サリーの着付け



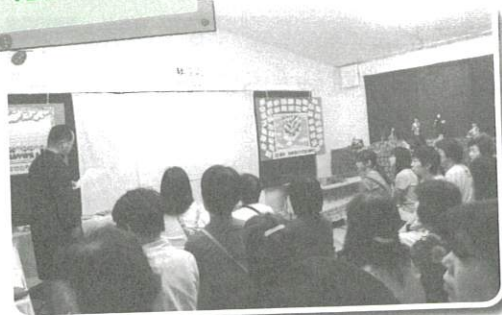
リキシャの前で記念撮影

ハーバリウム作りに和太鼓の演奏、タロット占いに模擬店と楽しいイベントが満載でした。来年もぜひ参加したいです。

40代 女性



活動紹介

エンゼルホームの子ども達の生活の
様子をスライドで紹介

国際エンゼル協会は先代の志を引き継ぎ、一つの目標に向かって活動されていることを知りました。その活動の中に皆さんの心の温かさを感じ、私自身も温かい気持ちになりました。36年続けてこれ、それが社会的な力になっていると実感しました。

50代 男性

タロット
占い

チャリティタロット占いも大好評

模擬店



模擬店も多くの人で大賑わい

このたびの手工品の売り上げや模擬店などの収益は、バングラデシュなど途上国の子ども達の教育支援のために役立てさせていただきます。

バングラデッシュ紹介

ベンガル新年「ポヘラ ボイシャク」

バングラデッシュでは4月14日にベンガル歴の新年を迎えます。現地の人は1月1日の元旦はひっそりと過ごし、このベンガル新年を盛大にお祝いしています。今年も首都のダッカでは1,000人を超す人がパレードに参加し、大きな公園ではステージが作られ、歌や踊りなど様々なイベントが催されました。YURIKOエンゼルスクールでは少し遅れて4月27日にお祝いのイベントが開催されました。子ども達は綺麗に着飾り、何日も前から一生懸命練習した歌や踊り、劇やマジックショーなど披露しました。校庭ではバザーやお菓子の屋台なども開かれ、生徒もご家族もみんな大いに楽しみました。



きれいに着飾って参加する子ども達



ダンスを披露する生徒達



バザー会場も大盛り上がり



ツアーの参加者との交流

農村（カパシア）

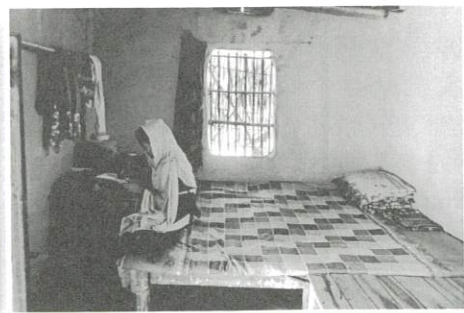
バングラデッシュの国旗は日本の国旗と似ており、緑の地に赤丸となっています。赤い丸は昇る太陽を表し、地の緑色は豊かな大地を表していると言われています。近年、縫製工場などたくさんの工場が出来て都市部は人で溢れていますが、首都ダッカから3時間ほど車で走った先にあるカパシア郡は国旗の表すように緑豊かな農村部です。しかし、たくさんの木々や果物、自然に恵まれている一方で経済的に貧しい家庭も多く、当協会ではそのような人々に奨学金の支給やノクシカタ刺しゅうの内職の提供、識字教室などの支援をしています。そんなカパシアの人達と4月のスタディツアーで交流をしてきました。



土壁で作られた学校校舎。教室には電気も扇風機も無く、薄暗い中でも毎日子ども達は勉強に励んでいます。



当協会の奨学金を受けている農村部の学生達との意見交換会。将来の夢や日々の生活の事など様々な話を聞かせてもらいました。



部屋には小さな裸電球一つで、ベッドに腰かけながら毎日6時間以上勉強している奨学生の部屋。



ノクシカタで稼いだお金を貯めて買った食器棚などを見せてくれる女性。

DCEFだより

奨学生のスピーチ — バングラデシュ



こんにちは。私はサルマ・スルタナと申します。長い間国際エンゼル協会の奨学金の支援をいただき感謝の気持ちで一杯です。そして、私が一番に思い浮かぶのは国際エンゼル協会の創始者、川村百合子さんの事です。川村さんのおかげで私達のような女の子でも勉強を続けることができました。私だけでなく、本当にたくさんの子ども達が教育を受け続けることができ、社会の役に立つ仕事をしています。

私はカパシア村の出身です。父は小さな商店で働いています。小さい時から「女の子に勉強は必要ない、それよりも家事を学んで早く結婚する方が良い」と言われて育ってきました。それでも両親は小学校の5年間は学校に通わせてくれました。小学校卒業後、父や周りの親戚みんなが「学校に通うくらいならそのお金を貯蓄して結婚資金にした方が良い」と言いました。しかし私はもっと勉強を続けたかったのです。何度も父と話をし、やっと父も中学校に通う事を許してくれました。しかし金銭面の不安があり、どうしようと悩んでいました。そんな時当時の中学校の校長先生が国際エンゼル協会の奨学金を紹介してくれました。しっかり勉強を頑張り続けていれば中学校5年間、そして高校、大学とずっと国際エンゼル協会から奨学金をいただけると聞き、その事を励みに一生懸命勉強をしてきました。気付けば中学、高校、大学と11年間奨学金をいただきながら勉強を続ける事ができました。今は大学院で経営学を学んでいますが、日本の皆様の支援がなければここまで来ることが出来なかったです。

また、奨学金を受け取る時に現地責任者のバリさんから様々なお話を聞きました。「いつも身の周りをきれいにする、礼儀正しく生きる事、そして将来の夢は見るだけでなく叶えるためにあると言う事」その事をいつも忘れず、私は夢を叶える為に頑張っています。

私達のような貧しい女の子は皆様からのご支援がなければきっと勉強を続ける事はできなかったと思います。私の夢は公務員になり、国際エンゼル協会の皆様のように多くの人々を助ける事です。本当にありがとうございました。

サルマ・スルタナ
(バワル・ボドレ・アロム大学 経営学部 大学院生)

DCEF (ディセフ)とは… [Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデッシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

ノクシカタ刺しゅう製品紹介

様々なノクシカタ刺しゅう製品の中でも華やかな刺しゅうが目を惹くデザインのこのポーチは、ちょっとした外出時に小物や手帳を入れたり、スマートフォンやデジカメケースとしても使えます。また肩から斜め掛けができるのでとても便利です。是非一度手に取ってご覧下さい。商品に関しては事務所までお問い合わせください。

★便利ケース(4) サイズ・12.5cm×18cm・1,000円